

第18回宝塚市手話言語施策推進会議 議事録

日時:令和7年(2025年)7月7日(月)18:30~20:30

場所:宝塚市役所 4階 政策会議室(旧3-3会議室)

【次第】

(1) 令和6年度(2024年度)手話関連事業実績報告について【資料1】

- ア 手話講座関連(市民向け及び職員向け ほか)
- イ 図書館との共同事業
 - ① 手話による絵本の読み聞かせ「手話で楽しむ絵本の世界」
 - ② 絵本を使った手話指導「絵本で楽しむ手話の世界」
- ウ 宝塚市手話言語条例パンフレット配布
- エ 手話言語の国際デーライトアップ
- オ 手話言語の国際デーイベント
- カ 宝塚市手話言語講演会
- キ 仕事始めの式典

(2) 令和7年度(2025年度)手話関連事業計画について【資料2】

- ア 手話言語の国際デーライトアップ
- イ 東京2025デフリンピック
- ウ 第5回宝塚市手話言語発表会
- エ 宝塚市手話月間(3月)

令和7年度(2025年度)宝塚市手話月間の取組(案)【資料3】

【参考資料】

- ・資料1 令和6年度(2024年度)手話関連事業実績報告
- ・資料2 令和7年度(2025年度)手話関連事業計画および中間報告
- ・資料3 令和7年度(2025年度)宝塚市手話月間の取組(案)
- ・資料4 第17回宝塚市手話言語施策推進会議議事録
- ・資料 宝塚市手話言語施策推進会議委員名簿
- ・資料 宝塚市手話言語施策推進会議設置要綱

【出席者】(順不同)

委員 関西学院大学人間福祉学部 非常勤講師 平 英司
宝塚手話サークル連絡会 代表 松原 理恵
宝塚市身体障害者福祉団体連合会 会長 志方 龍
宝塚ろうあ協会 会長 加藤 めぐみ
宝塚市教育委員会事務局 学校教育部特別支援教育担当 副課長 高橋 範充
宝塚商工会議所 中小企業相談所 所長 田中 香織

【協議録】

(事務局)

本会議の趣旨を説明します。本会議は、宝塚市手話言語条例第6条の規定に基づき、市が推進する施策の実施状況、見直し等について、広く市民、事業者、知識経験者の方々にご意見をお聞きするために開催をするものです。本日の配付資料の確認をさせていただきます。次第、資料1、資料2、資料3、資料4、宝塚市手話言語施策推進会議委員名簿及び設置要綱になります。それでは、以降の進行は、委員長をお願いします。

(委員)

議事に入ります。事務局から報告をお願いします。

(事務局)

議事(1)の令和6年度(2024年度)手話関連事業実績報告につきましては、各自ご確認いただき、説明は割愛させていただきます。気になる点がありましたら、ご質問をお願いします。

(委員)

議題(1)に関して、ご質問はないでしょうか。

(委員)

資料1の手話講座関連ですが、受講者数が計179人になっています。障碍(がい)福祉課としての目標数はありますか？

(事務局)

手話講座受講者数の目標は200人です。令和6年度(2024年度)は179人で目標数には少し足りませんでした。資料2の令和7年度(2025年度)の受講者数114人は、秋コース分が含まれていません。令和6年度(2024年度)と比べると、少し多めに推移していると思います。

(委員)

目標数200人の算出方法は、人口割りででしょうか。

(事務局)

講座の定員数と部屋の定員数、申し込み状況を勘案して200人としています。

(委員)

受講者は、初めての方ばかりですか。何度も受講されている方もいますか。

(事務局)

初級講座は、初めての方のみです。中級講座は、繰り返し受講される方もいます。特に年齢の高い方が、再受講されています。手話言語を覚えていただけるよう、可能な限り受け入れています。

(委員)

今年4月の初級講座は、59人と多いですが、全員を受け入れたのでしょうか。

(事務局)

開催場所の部屋の定員数に満たなかったこともあり、申し込みいただいた全員の方に受講していただきました。宝塚市手話言語条例があり、手話のできる市民を増やす取組みの一環と考えています。初級講座や中級講座では、簡単な挨拶や自己紹介、身近な会話ができる内容となります。一人でも多くの方が手話にふれて、興味を持っていただきたいと考えています。

(委員)

先日、宝塚ろうあ協会との面談で、市内の子どもたちが手話に触れる機会は、学校だけでなく、地域の中でも増

えていくと良いと話が出ました。講師の派遣や、宝塚市立図書館で手話が学べる、手話に親しめる機会があるのは、非常に良いと思います。宝塚市立図書館での取組は、宝塚ろうあ協会が協力されて、手話での絵本の読み聞かせをされていると思いますが、どんな様子で取り組んでいますか。教育の場でも試したいと思います。

(事務局)

宝塚市立西図書館での絵本の読み聞かせは、3か月に1回(6・9・12・3月)第3日曜日10:00~11:00に開催しています。読み手はろう者のみで、絵本の読み聞かせとその絵本に出てくる手話単語の指導をしますが、手話通訳者はいません。ろう者の手話に直接触れる体験ができます。絵本は、大型絵本を使っています。人気のイベントで毎回30人前後の方が参加し、明石市や大阪府からもお越しになります。宝塚市立中央図書館の開催日程は、毎月第4日曜日14:00~15:30です。絵本は、音声は付けず手話のみで表現しています。そのあとの交流の時間では、宝塚市立中央図書館の担当者が絵本の面白さを話したり、手話に関する質問が出たりします。こちらも評判で、東京から、このイベントのために来られた方や、京都府や大阪府から通っている方もおられます。音声を付けずに手話だけで絵本の読み聞かせをすることが、珍しいのだと思います。こちらは、大型絵本ではなく、プロジェクターで拡大して、後ろの方にも見やすいよう工夫しています。毎回、絵本を映し出すために出版社へ著作権の確認もしています。

(委員)

手話に対する知識がなくても楽しめるような、気軽に行ける場所になれば良いと思います。表情や身振りを見て、楽しんでもらいたいです。

(委員)

次に、議事(2)アからエについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

ア、手話言語の国際デーライトアップについて、令和6年度(2024年度)の手話言語の国際デーライトアップは、令和6年(2024年)9月23日に大本山中山寺と宝塚市役所第二庁舎の2か所で行いました。今年度の取組案ですが、昨年度と同じ大本山中山寺と宝塚市役所第二庁舎、外壁工事のため昨年度は実施できなかったぶらざこむでも実施できればと考えています。事務局としては、市民の方への啓発、また、関心を持っていただく方法として、ブルーライトアップだけでなく、スタンプラリーのようなイベントができればと考えています。例えば市役所をゴールとして記念品を配ることで、お子さんにも興味をもってもらい、家族と一緒に回ることができるのではないかと思います。また、最後に、参加者で手話歌を歌う等のイベントができないかと考えています。

イ、東京2025デフリンピックについて、日程は11月15日から11月26日、東京を中心とした会場で開催されます。行政としては、市ホームページや市広報での周知、また、ポスターを障碍(がい)福祉課に掲示し、来庁した市民にデフリンピックを知っていただけるように取り組んでいます。また、9月に宝塚市障碍(がい)者運動会(キャピリンピック)が開催されますので、その会場でポスターの掲示等を行うことができると思います。他、スポーツ振興課で行うスポーツイベントでも、ポスターの掲示等を行い、周知を図りたいと思います。

ウ、第5回宝塚市手話言語発表会について、手話言語発表会と手話言語講演会は、隔年開催としており、令和6年度(2024年度)は講演会、そして、令和7年度(2025年度)は発表会となります。今年5月に実行委員会を立ち上げて、出場者募集要項の作成を進めています。開催日時は、12月14日(日)13:15~16:15、リハーサルは、前日の12月13日(土)午後から、宝塚市立中央公民館の予定です。次に、出場者募集にあたり、主なスケジュールですが、9月1日(月)から、出場申込書を市ホームページ、障碍(がい)福祉課等の窓口で配布します。申し込み期間は、9月1日(月)~9月30日(火)です。発表に使用するCD/DVD、映像で出場する学校のCD/D

VDの提出の締め切りは、11月12日（水）。今回は、ぎりぎりまで準備ができるように、皆様の意見を反映してスケジュールを組んでいます。

エ、宝塚市手話月間について、今年度も、宝塚市立中央公民館での展示を考えており、役割分担を予め決めて取り組んでいきます。各分担ですが、手話の知識は、宝塚ろうあ協会、啓発は、宝塚手話サークル連絡会、制度は、障碍（がい）福祉課が行います。展示物等は、著作権やプライバシーに配慮する必要があるので、事前に確認をお願いします。今年度も、市内の小・中学校で実施しています手話体験学習の子どもたちの思い・感想文を会場に展示します。また、手話月間啓発のための横断幕及びのぼり旗も掲げます。

（委員）

手話言語の国際デーブルーライトアップで、スタンプラリーや手話歌の案が出ましたが、ご意見はありますか。

（委員）

スタンプラリーや手話歌等のイベント案について嬉しく思います。ぜひ実行したいです。

（事務局）

これまで、宝塚ろうあ協会や宝塚手話サークル連絡会、手話言語施策に関わりのある方が参加してくださっていました。一般の市民の方により多く参加していただくために、スタンプラリーという形で、特にお子さんにも参加いただけたらと考えました。ただ、大本山中山寺からぶらざこむし、そこから宝塚市役所に来るのは、大変な移動になります。時間も限られるので、一般の方が参加していただけるか心配もあります。スタンプラリーも、3か所すべてに行くのか、2か所にするのか、もしくは、スタンプラリーは実施せず、最後に宝塚市役所に集まっていただいて、手話歌等の体験をしていただくというやり方もあるかと思います。

（委員）

スタンプラリーの開始時間は、何時頃をイメージしていますか。

（事務局）

事務局としては、昨年度までと同様にライトアップの時間に合わせて、スタンプラリーも行うイメージです。

（委員）

ライトアップを中心としたイベントとして考えるのではなく、手話言語の国際デーのイベントとして、スタンプラリーやライトアップがあると考えると、スタンプラリーは日中から行ってもよいと思います。

（委員）

手話言語の国際デーの周知で考えると、ライトアップだけでなく、例えば、お店に青いものと、手話言語の国際デーの簡単な説明文を置いてもらうこともできると思います。ライトアップに協力いただける店舗等を探す形にしてはという意見がありました。

（委員）

宝塚市立図書館でもイベントをするのであれば、そちらにスタンプラリーの用紙を置いてもらうことはできますか。

（委員）

置きます。9月21日（日）・22日（月）・23日（火・祝）と3日間のイベントにできます。図書館の行事に参加する2日間とライトアップ会場の3か所を回ることによって集客力につながります。やり方はいろいろ考えられます。

（委員）

先日、宝塚ろうあ協会の役員で、阪急宝塚駅をブルーライトアップしてもらえないか打診に行ってきました。15年ほど前に、駅のバリアフリー化計画の際にお世話になった方がおり、阪急宝塚駅とJR宝塚駅の間の陸橋のライトを使ってブルーライトアップができないかと考えています。

(事務局)

阪急阪神ホールディングスと宝塚市は、包括連携協定を結んでいます。昨年度協力いただいた宝塚大学とも包括連携協定を結んでおり、その関係で協力してもらいました。市の関係部署にお願いしてみます。

(委員)

阪急宝塚駅とJR宝塚駅の間にモニュメントがあります。以前は、ライトアップされていたと思いますが、宝塚市の管轄でしょうか。

(事務局)

宝塚市の持ち物です。所管の担当課は、確認します。もし、そこがライトアップ可能であれば、宝塚市役所第二庁舎からの変更も考えられると思います。

(委員)

阪急宝塚駅前広場の前にも、歌劇のダンスをしている像があります。いつも夜には、紫色にライトアップされていたように思いますが、それも宝塚市の所有ですか。

(事務局)

市が所有しており、観光にぎわい課の所管です。ライトアップをしているか、一度確認をします。

(委員)

最初に提案のあった阪急宝塚駅とJR宝塚駅の間の陸橋のライトアップについては、検討いただきたいと思います。人通りも多いので、安全対策は必要になると思いますが、よい啓発になります。

(事務局)

ブルーライトアップは、国際的な動向もあり、宝塚市としても進めていきたいです。今、ご提案のあった3か所は、所管がどこかを確認し、検討してみます。包括連携協定先などに協力してもらうことも含めて考えます。

(委員)

一般の人を巻き込むという意味でも、宝塚駅周辺でのライトアップは効果的です。また、移動の面でも駅周辺の方が便利ですので、ぜひ検討いただきたいです。

(委員)

イ、東京2025デフリンピックについて、何かご意見はありますか。

(委員)

宝塚ろうあ協会では、5月のぷらざこむIのお祭りで、デフリンピック啓発の発表を行いました。12月の宝塚市手話言語発表会にもつなげたいと考えています。

(委員)

先日、全日本ろうあ連盟の講演会に参加しました。その時に、デフリンピックの効果として、世界各国から聞こえない選手、関係者、観客が6,000人～7,000人規模で来日することで、特に東京周辺のホテルや鉄道関係が大きく変わるのではないかと期待されているとの話がありました。デフリンピックは、スポーツの祭典ですが、それだけではなく、社会が変わるきっかけになることを期待しているとの話は印象的でした。東京から日本全体に、そして宝塚市にも変化があるのではないかと期待しています。

(委員)

情報保障という面で、日本の聞こえない人だけでなく、外国の聞こえない人への対応について考える機会が増えることは、とても大事なことです。

(事務局)

こちらに情報はないのですが、宝塚市もしくは兵庫県からデフリンピックに参加する選手はいますか。

(委員)

今、詳細な情報は分かりません。まだ選考中の競技もあり、すべての代表選手が決まっていません。また、兵庫県出身であっても、活動は大阪でされている方もいます。また、確認したいと思います。

(事務局)

今後の啓発事業などに協力いただけるかと思い、お聞きしました。

(委員)

ウ、第5回宝塚市手話言語発表会について、何かご意見はありますか。

(事務局)

宝塚市手話言語施策推進委員の皆さんには、宝塚市手話言語発表会の実行委員会の委員もお引き受けいただき、ありがとうございます。2回開催した実行委員会の中でいただいたご意見をもとに募集要項の最終案を作成しました。後ほど、ご確認いただきますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

各サークルからの協力員は、いつまでに決めればいいですか。

(事務局)

ありがとうございます。出場者の人数が決まりましたら、こちらから改めてお声掛けをさせていただきます。また、実行委員会の皆さんには、可能な範囲でリハーサルにも出席いただければと思います。

(委員)

エ、宝塚市手話月間について、何かご意見や質問はありますか。

(委員)

展示物の分担は、とてもわかりやすいです。展示する際は、それぞれのテーマ毎にエリアを分けて展示しますか。

(事務局)

テーマ毎にエリアを分けて展示します。昨年度は、ボードを4枚使いました。もし、手話指導に行った学校からの展示物等が増えるようでしたら、もう1枚追加することも考えます。

(委員)

市長に手話月間について手話をしてもらい、その映像を会場で流すことはできますか。

(事務局)

確約はできませんが、一度、市長にはお願いしてみます。また、宝塚市立中央公民館で映像を流すための機材をお借りできるかも確認します。

(委員)

市長は、インターネットで動画を配信されています。そちらでも、手話月間について話していただけると、市民の方に広く知ってもらえると思います。

(事務局)

市長は、「もりナビ」という動画の配信をしています。そちらの活用についても、聞いてみたいと思います。

(委員)

宝塚市立中央公民館での取組とは別に、宝塚手話サークル連絡会と宝塚ろうあ協会で協力して、手話月間にあわせて、ぶらざこむIで展示を行っています。昨年度は、手話の動画を撮って、モニターで流してもらい手話月間

後も、続けていただいています。ぷらざこむの運営主体が変わるので、今年度も同じようにできるかは分かりませんが、やっていただきたいと思います。

(委員)

「もりナビ」ですが、手話が付いていません。なぜですか。

(事務局)

チェックができていませんでした。申し訳ありません。至急、話をしたいと思います。

(委員)

市長に手話をしていただいて、宝塚市立中央公民館で流すとの話がありました。それとは別に、宝塚市役所の窓口サービス課にもモニターがあり、時々手話の映像が流れています。市長に手話月間の PR を手話でしていただき、その動画を流すことはできますか。

(事務局)

窓口サービス課にあるモニター映像は、窓口サービス課が所管しています。手話動画、市内の民間企業の広告、また市内の各課からのお知らせ等を1年間のサイクルで映像を作ってもらっています。そのため、自由にこちらから依頼して、映像を流してもらうことは難しいです。

(事務局)

窓口サービス課のモニターで流している民間企業の広告については、広告料をもらって流しています。そのため、行政が流す枠は時間が決まっています。ただ、3月は優先できるのか、確認してみます。

(委員)

資料3に市内で行う啓発とありますが、この放送はどのような形で、どんな内容でしょうか。

(事務局)

市役所の中で流れる職員や市民向けの市内放送は、時間が決まっています。お昼休み中に流れることが多いです。1回1〜2分程度の手稿を、1日2回放送できるように依頼中です。内容については、耳の日である3月3日を含む3月を手話月間として制定したこと、また宝塚市立図書館や宝塚市立中央公民館での取組の案内となります。手稿は、障がい福祉課で作成しています。

(委員)

来庁された市民の方も放送を聞くということですか。

(事務局)

宝塚市役所の職員と来庁される市民の方に聞こえます。

(委員)

聞こえない方は、放送を聞くことができないため、宝塚ろうあ協会に、手稿の内容を周知していただければと思います。

(事務局)

この後、宝塚市手話言語発表会の募集要項につきまして、最終的な確認をお願いします。

(事務局)

次の開催日程は、令和8年(2026年)2月2日(月)17:00~19:00、場所は、宝塚市役所内を予定しています。よろしくお願いいたします。

以上